

# 「地 韻 — 対 比 —」

Chiin — Contrast —

鈴木喜家

Yoshiya Suzuki

日本画制作における絵画性と精神性を探究する。地韻シリーズは具象化と具現化の対比の中に表現された心理を自己の世界として探り出す。その絵画性の目標により精神性を発掘することが強固な世界観を生み出すと考える。

心象風景として、その周りの風景に結びつく情景は言葉では表現できない、深い鎮魂の世界が事の重大さを投げかけてくれる。

心象の世界も具象の世界も現実、非現実の空間の中に漂っているに違いない。空間にも有の空間、無の空間に自己を浸すと考察の裏側が見えてくるのではないか。虚空間と現空間との違いが自らの相考とは相俟っている虚実と現実を表現できるものとの混在が難しいことである。どちらにしても一つの実像しか創作できない自己の葛藤であり虚実な運命を感じる。

実像に捉われ<sup>かたち</sup>ない容には空間の織りなす強力な引力を感じる。虚像に<sup>かたち</sup>容を求めれば不安定な虚無空間になり、虚実になる。平行のままの世界が心理の中に働きかける。無とは無に、虚とは虚に、空とは空に、実とは実に無限に広がる空間になるのではないか。

「地韻一宙一」の作品は前述した虚無の世界を水滴の断面に創造して表現した自身の心象の世界であります。抽象形態がこれからの展開を極める自作につながるよう、少しでも薄っぺらな世界ではなく自身を真相し研鑽するしかない。素直な真相心理が自己に関わる重要な視点に結びつくことを探求するものである。



「地韻」2008年 1800×900

麻布・岩絵の具・顔料・金泥





「地韻一宙」 2009年 1800×5400  
麻布・岩絵の具・顔料・箔・金泥





「地韻-幻想-」 2006年 1800×1800  
麻布・岩絵の具・顔料・金泥



「地韻-幻-」 2006年 1800×1800  
麻布・岩絵の具・顔料・金泥



「地韻-嶽-」 2007年 1800×1800  
麻布・岩絵の具・顔料・金泥



「地韻-樹心-」 2007年 1800×1800  
麻布・岩絵の具・顔料・金泥





「地韻-樹根-」 2007年 1800×1800  
麻布・岩絵の具・顔料・金泥



「地韻-空-」 2008年 1800×1800  
麻布・岩絵の具・顔料



「地韻—現—」 2009年 1800×1800  
麻布・岩絵の具・金泥

撮影 稲垣智人